福岡県みやま市

住所	〒835-8601　福岡県みやま市瀬高町小川5番地
市長	松嶋 盛人（バイオマス産業都市推進協議会　理事） バイオガス部会運営幹事
HP	https://www.city.miyama.lg.jp/
バイオマス産業都市選定年度	2014年度
バイオマス産業都市構想	https://www.jora.jp/wp-content/uploads/2021/02/miyama_k.pdf
担当部署	環境経済部　環境衛生課
連絡先　TEL	0944-32-8575
連絡先　FAX	0944-32-8576
連絡先　E-mail	junkan@city.miyama.lg.jp

事業化プロジェクトの概要

名称		メタン発酵発電液肥化プロジェクト
実施主体		みやま市
実施体制	プラントメーカー	三井 E&S 環境エンジニアリング株式会社
	設計・施工業者	三井 E&S 環境エンジニアリング株式会社
概要（計画）	バイオマス原料	生ごみ、し尿・浄化槽汚泥
	原料投入量(t/年)	生ごみ　1,599 t /年（2021年度実績） し尿　15,205 t /年（2021年度実績） 浄化槽　22,905 t /年（2021年度実績）
	生産物	液肥　11,794 t /年（2021年度実績）
	発電量(kwh/年)	370,404 kwh/年（2021年度実績）
	FITの適用	☐FIT適用　☑FIT対象外

名称		紙おむつ資源化プロジェクト
実施主体		みやま市
実施体制	処理委託業者	トータルケア・システム（株）
概要（計画）	原料	使用済み紙おむつ
	原料投入量(t/年)	202 t /年（2021年度実績）

紙おむつ回収BOX

紙おむつ専用回収袋

バイオマス事業の進捗状況

事業化プロジェクト	進捗状況
1.メタン発酵発電液肥化プロジェクト	H28年度　生活環境影響調査、実施設計所、液肥散布モデル事業、液肥散布農地土壌分析、生ごみ分別モデル事業 H28年度～　建設工事（環境省「循環型社会形成推進交付金」） H27年度　液肥利用研究会を設立。（構成員はJA部会や農業法人等、活動内容は先進地視察や実地での液肥利用等） H29年度　住民説明会（生ごみ分別説明会）を市内約200ヵ所で行った。 バイオマスセンター建設工事 H30年度　みやま市バイオマスセンター竣工、家庭系生ごみ収集開始 液肥散布（筍6.5ha、麦追肥12.1ha） R1年度　液肥利用協議会設立 水稲への液肥散布（元肥90ha、追記72ha） R2年度　水稲への液肥散布（基肥98ha、追肥74ha） R3年度　水稲への液肥散布（基肥105ha、追肥88ha）
2.紙おむつ資源化プロジェクト	H27年度　紙おむつ分別収集を市内36カ所に回収ボックスを設けて開始。 収集量増加に向け、住民説明会を通して回収ボックスの設置場所や紙おむつの出し方を伝え普及啓発を行っている。 H29年度　住民説明会を生ごみ分別説明会と併せて行った。 H30年度　回収ボックスを１つ増設 R2年度　分別アプリの導入とそれによる紙おむつ分別の周知

イニシャルコスト　（千円）

事業化プロジェクト	1．メタン発酵発電液肥化プロジェクト	2．紙おむつ資源化プロジェクト
建設費・設備費等	2,116,800 （建設費・設備費）	8,214 （処理委託料）

ランニングコスト（千円/年）

事業化プロジェクト	メタン発酵発電液肥化プロジェクト	紙おむつ資源化プロジェクト
運転管理委託料	135,000	
処理委託料		8,214
その他委託料	5,516	
設備工事費	36,042	
修繕費	1,019	
廃棄物処理費等	0	

事業の経営状況

事業化プロジェクト名	計画との進捗比較※	事業実施による効果（地域波及効果の発現状況）
		効果
1．メタン発酵発電液肥化プロジェクト	B ほぼ計画通り	
2．紙おむつ資源化プロジェクト	B ほぼ計画通り	

※A)計画以上に進捗している　B)ほぼ計画通り　C)計画より遅れている　D)進んでいない

成功要因

事業化プロジェクト名	成功要因
メタン発酵発電液肥化プロジェクト	生ごみ収集については、住民の理解と協力 液肥散布について、液肥利用者協議会での液肥散布計画作成と散布までの協力体制

波及効果（雇用増加、CO2削減効果等）

事業化プロジェクト	成功要因
メタン発酵発電液肥化プロジェクト	メタン発酵発電施設の運転管理において、地元企業を採択し、雇用を生み出した。生ごみ、し尿・浄化槽汚泥を燃やさずに処理することによりCO2削減を図ることができた。

運営上の課題

事業化プロジェクト	要因
メタン発酵発電液肥化プロジェクト	今後、施設の経年による維持補修に経費が掛かるようになるため、効率的な点検、保守に努めなければならない。